

「高い防災意識を持つ住民を育てるための教育」

愛知県立豊田西高等学校 須賀 洋斗

大井 暁裕 堀尾 文彌

趣旨

私が豊田市長になったら防災に関して以下の三つの改革を行っていききたい。

1. 学校での防災教育の強化
2. 人手不足の場合に中高生が避難場所などで活躍できるようにするための準備
3. 防災訓練施設の建設

詳細

1. 学校での防災教育の強化

(1)動機

現在の豊田西高校における避難訓練は、「決められた時間にクラス全員で教室からグラウンドへ移動する」というものであり、防災の知識について学ぶ時間はあるものの、いつ起こるかわからない災害への備えとしては不十分であると思われる。我々は、このような実態の学校がほかにもあるのではないかと考え、防災教育をより充実させていく必要があると思った。

(2)具体的な内容

(ア)災害はいつどのような状況で起こるか分からないため、避難訓練を以下のように行う。

- ・開催日非公表での実施
- ・清掃時などクラス全員がそろっていない時間帯での実施
- ・通路がふさがれた状態を想定し、一部の避難経路を封鎖して実施

(イ)様々な災害を細かく想定し、それぞれに対してどういった行動をとるのが適切か議論を重ねる。

- ・ハザードマップを活用し、洪水が起きた際、どこへ逃げれば安全か話し合う。
- ・一人での避難が困難な高齢者が地域にいるか確認し、どのようにサポートするか話し合う。
- ・電柱や塀が倒れ、通行できなくなる可能性が高い場所がどこにあるか話し合う。

2. 人手不足の場合に中高生が避難場所などで活躍できるようにするための準備

(1)動機

災害が起きた際に、多くの住民が避難場所に指定されている小中学校などへ避難することが予測されるが、炊き出しや水の支給、毛布の配布などをはじめとする活動を行う人員が不足する可能性が高い。このような場合、地域に住む中高生があらかじめ活動を補助することができるよう準備しておくことが必要だと思った。

(2)具体的な内容

(ア)人手不足になった際に中高生が手伝うことのできる活動をまとめ、「基本活動リスト」を作成する。(その地域独自の特別な活動を行っている小中学校については、そのことも明記する。)

(イ)「基本活動リスト」を中学校、高等学校に配布する。

(ウ)教員が生徒に活動内容等を説明し、いざという時に生徒がしっかりと動けるようにする。

(エ)実際に災害が発生し、避難場所で人手が足りなくなった場合は、各校の教員または市の職員が的確な指示を出し、円滑に活動できるようにする。

(3)「基本活動リスト」に含まれる活動内容

- ・毛布の配布
- ・炊き出しの手伝い
- ・エコノミークラス症候群等を防止するためのラジオ体操の指揮取り
- ・水、食料の支給
- ・仮設トイレの設置及び清掃
- ・ゴミの整理
- ・壊れた家屋の整理、解体

3. 防災訓練施設の建設

(1)動機

実際の災害に近い状況で訓練を行うことにより、災害が起きたときにも落ち着いた行動がとれると考え、リアリティーの高い災害再現施設を建設するべきだと思った。

(2)具体的な内容

- ・ブロック塀が崩れ道路には亀裂が入っているような危険な道を安全面に配慮した上で再現し、体験者はその道をインストラクターの指示を受けながら安全に歩く訓練
- ・東海地震のイメージCG映像などをはじめとする様々な災害に関する映像の上映
- ・地震の訓練だけでなく、スモークマシンを使った煙体験など様々な災害の模擬体験

以上のようなことができる施設を建設し、地域住民の防災能力の向上を図る。また、小学生などの団体での体験も積極的に受け入れていく。

まとめ

自然災害を人間の手で止めることはできないが、自然災害による被害を最小限に食い止めることはできる。今回の三つの改革を行うことで、精神面も含めた「災害に対する準備」がより整っていくだろう。そうすれば災害が起きた際にも、落ち着いて適切な行動をとることができる。それが、被害を最小限に食い止めるということにつながっていくと我々は考える。住民の防災意識が向上し、豊田市全体が「災害に負けないまち」となっていくことを心より願っている。